

## 第1回 新たな「札幌市教育振興基本計画」検討会議 議事録

日 時：平成25年4月19日（金）9時30分～12時

場 所：札幌市教育委員会4階 教育委員会会議室

出席委員：大久保委員、室橋委員、梶井委員、長沼委員、河野委員、飯田委員、竹谷委員、稲邊委員、林委員、星野委員、丸谷委員、三宅委員、秋山委員、塚野委員、富田委員、永根委員

欠席委員：なし

事務局：町田教育長、西村教育次長、梅津生涯学習部長、平井企画調整担当課長、田中生涯学習推進課長、田村栄養指導担当課長、松本配置計画担当課長、井口教育推進課長、信太調査企画担当係長、札幌調整担当係長、近藤生涯学習係長、山谷社会教育担当係長、太田配置計画担当係長、豊島教育推進係長、塩越学びの支援係長、工藤指導担当係長、山下幼児教育担当係長、宮野企画担当係長、松岡調査企画担当係員、大津調整担当係員

### 1 開 会

### 2 札幌市教育委員会教育長挨拶

開会にあたり、札幌市教育委員会の町田教育長が挨拶を行った。

### 3 出席者紹介

資料1の委員名簿順に、出席委員から自己紹介を行った。

事務局出席者の自己紹介を行った。

### 4 会議の運営に関する事項

資料2・資料3について、事務局から説明を行った。

### 5 会長・副会長の選出

河野委員からの推薦により、会長に大久保委員を、副会長に梶井委員を選出した。

### 6 会長・副会長挨拶

大久保会長及び梶井副会長から挨拶を行った。

#### <大久保会長>

会長という大役で緊張している。事務局の方から説明があったように、今後10年を見据えた札幌市の教育をどのようにしていくか、札幌市の教育振興基本計画の策定に向けて色々な御意見をということ。札幌市のより良い教育のあり方を目指して、一生懸命頑張らせていただくので、皆様の御協力をどうぞよろしくお願いしたい。

#### <梶井副会長>

副会長ということで御指名をいただいたので務めさせていただく。次世代のために我々に何ができるのかということをお聞きしながら、皆様の御協力をいただいて、また会長をサポートしていきたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

## 7 議 題

### (1) 新たな「札幌市教育振興基本計画」の基本的な考え方

資料4について、事務局から説明を行った。

### (2) 新たな「札幌市教育振興基本計画」検討会議のスケジュール

資料5について、事務局から説明を行った。

### (3) 教育を取り巻く現状と課題

資料6・資料7について、事務局から説明を行った。

#### <林委員>

現行の計画の個別の問題点を全て振り返ったものが資料7で、それを文章化したものが資料6という解釈でよいか。

#### <事務局（調整担当係長）>

大きな括りで総括して文章化しているので、個別具体的なものまで必ずしも全て網羅されているわけではないが、御質問の解釈でよい。

#### <大久保会長>

(資料6)P4「学校教育に関する成果と課題」について) 実際の知識に比べて、思考力・判断力・表現力等の低下ということは全国的にも言われていることであるが、札幌市において見られる具体的なものがあればお聞きしたい。

#### <事務局（指導担当係長）>

例えば、ペーパーテストや一問一答への回答は比較的出来る反面、文章で表現する設問や、また授業中に手を上げて発言することを苦手とする子どももおり、基本的な事柄を応用したり、自分の考えを述べたり、または解釈したりというところを、子どもたちに身に付けさせる必要があるのではないかと考えている。

#### <大久保会長>

例えば、これについての具体的な取組は何かあるのか。

#### <事務局（指導担当係長）>

まずは、分かる・できる・楽しい授業が1つの鍵になるということで取り組んでいるところ。子どもが自分の意見を述べたり、他の子どもから意見を聞いたことについて自分で考え、表現したりする場面を設定するような授業づくりを目指し、教員の研修や指導主事による助言、指導資料の配布などの取組を行っている。

#### <林委員>

(資料6)P3「学習指導要領等の改訂」について) 今の質問に関連して、ここで「思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視」とあるが、「バランス」というのはどういうことをイメージしているのか。

#### <事務局（指導担当係長）>

学習指導要領の改訂の考え方もそうであり、札幌市教育委員会でも意識して取り組んでいること。例えば、算数であれば、計算のための知識はもちろん大事であるが、基礎的な知識として身につけて、実際に活用できる力、身についた計算力を実際の生活の場面で応用、活用できるかという両方のことを、どちらかに偏るのではなくバランスよく身につけるという考え方。

#### <飯田委員>

〔資料6〕（全体）について）ここで書かれていることは、どちらかと言うと全国的にも見られるようなことかと思うが、札幌市特有の課題として、行政で捉えていることがあれば教えていただきたい。

#### <事務局（調整担当係長）>

一般的な捉えの中で、その中で札幌市も例外ではなくということで御説明させていただいたところ。これも一般的なことではあるが、特に、東日本大震災以降、地域の繋がりや絆を深め、お互いに助け合っている社会を目指して行けるかということが大きな視点ではないかと考えている。

また、個別の課題で言うと、いじめ・不登校の問題や、非常に残念なことであるが札幌市において3年続けて生徒が自ら命を絶つということがあり、これらについては大きな課題だと認識している。

#### <大久保会長>

〔資料6〕P5「札幌らしい特色ある学校教育」について）この中で「学びの基盤【読書】」とあるが、読書についての札幌らしいというのは、どのようなところか。

#### <事務局（指導担当係長）>

札幌市では、「札幌市教育推進の目標」として「未来を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる自立した札幌人」と定め、ふるさとである札幌を誇りとしながら国際的な視野を持った「自立した札幌人」の育成を目指している。この「自立した札幌人」を具現化するため、札幌の素晴らしい自然環境・人的環境・文化的環境などを活かしながら、「札幌らしい特色ある学校教育」を進めてきた。そのテーマが、札幌の特色である【雪】と、札幌市が従来から取組を進めている【環境】と、【読書】。読書によって、未来を切り拓く人間性や創造性などが培われるとともに、生涯にわたり学び続けようとする心が培われるということで、学びを支えていく大きな部分という考えから、【雪】や【環境】と併せて【読書】をテーマとして設定している。

#### <梶井副会長>

先ほどの飯田委員、林委員からの発言はある意味では、札幌ならではのところにもう少しフォーカスできないかという意見が含まれていたように思う。例えば、雪や読書など「札幌らしい特色ある学校教育」をしても、札幌に雇用がないおかげで、地域に還元されていないなど、そういった札幌ならではの課題があるのではないかと思う。そうした札幌ならではの課題と、それに接合して教育的に力を入れるべき部分は何かという方向性を、少し考えていく必要があるのではないか。

#### <事務局（指導担当係長）>

ただいま御指摘いただいた件について、この「札幌らしい特色ある学校教育」も、学ぶ力・豊かな心・健やかな身体の育成と別に分かれているものではなく、【雪】【環境】【読書】の中核をなす3つの

テーマを切り込み口にしながら、学ぶ力・豊かな心・健やかな身体の育成を目指すもの。例えば、札幌の子どもたちの体力は低い傾向にあるが、札幌の自然環境等を活用し、スキー学習などを軸にしながら課題を解決していけないか、あるいは、いじめ・不登校や子どもの自殺など札幌市の大きな課題に関係して、読書を通じて豊かな人間性を育てていけないかというようなことに取り組んでいるところ。このようなことも、今後委員の皆さまの御意見をいただいて、この計画に取り入れていきたい。

#### <林委員>

(資料4「概念図」について)札幌市の最上位計画とある「札幌市まちづくり戦略ビジョン」は、中身は存じ上げないが、札幌市の弱みとか強みとか、そういうものに基づいた計画に恐らくなっていると思う。そうであれば、その弱み強みをこの教育の計画とどのように関連付けるのかということがもう少し具体的になれば、札幌らしい特色ある教育とはどうあるべきか、ということに繋がってくるのではないと思う。

#### <事務局(生涯学習部長)>

まちづくり戦略ビジョンは、当然教育の分野だけではなく札幌市全体の課題に言及されているところであるので、その中の教育に関連する課題については教育振興基本計画の中で引き継いで、色々な御意見をいただきたいと考えている。

まちづくり戦略ビジョンで挙げられている課題を大まかに申し上げると、これまで右肩上がりでも人口が増加してきたが、ピークを迎え減少に転じていくことに伴い、高齢化や、子どもの出生率の低下による児童生徒の減少などに繋がってくるということ。林委員から御指摘のとおり、そういった我々が今までに経験していない大きな変化を迎える中であって、どうしていくかという課題がある。

ただ、まちづくり戦略ビジョンは、教育の分野のみならず、まちづくり全体を地域、経済、環境など細かく分類しており、必ずしも教育の内容を全体として網羅したものになってはいない。そうしたことから、教育振興基本計画はまちづくり戦略ビジョンを補足する教育分野の基本計画という位置付けになるという考えで進めている。

#### <事務局(調査企画担当係長)>

補足であるが、まちづくり戦略ビジョンの審議会等の検討の中で、札幌の経済が弱いということで、将来の札幌経済を支える人材の育成という切り口から議論がなされている。そこでは、例えば、科学的リテラシー、勤労観や職業観、国際感覚を育む学習の充実など、将来の札幌経済を担う子どもを育むという切り口から教育分野に関する議論はされているが、教育全般として子どもの基礎力を育むといった観点はない。そのため、そういったことについては、教育振興基本計画の中で着実に位置付けていく必要があると考えている。

#### <大久保会長>

北海道、札幌の将来を見据えて、教育によって経済を支える人材の育成に繋がるようなかたちができないかということを経済界の人から聞いたことがあるが、そうした大きなビジョンの中で教育がどうあるべきか、ということかなということでお聞きしていた。

他にはいかがでしょうか。

#### <室橋委員>

北海道と札幌市のところで、札幌らしい特色ある学校教育の3つのキーワードは道でも言えること

だと思う。やはり札幌市だからということで出てくるキーワードが欲しい。雪や環境、読書でも他のところでも共通する部分があると思うので、札幌だからこのキーワードだという説得力が欲しいかなという気がする。

#### <竹谷委員>

学ぶ力の育成に関して、思考力・判断力・表現力と併せて子どもに想像力、モノを作り出す力を学ばせることで、子どもの力を発揮できるようになるのではないかと思う。また、子どもたちに均一にやるのではなく、子どもの得意なものを伸ばせるような教育をしてもよいのではないかと思う。

さらに、私は地域の活動をしているが、地域の中で学校と地域と家庭をどう結び付けるかということに、皆が苦勞している。自分が子どもの頃には、木登りをして、怪我をしたり、地域の人から叱られたりしたことがあったが、今はそうしたことが少なくなっている。地域の方々が子どもを見守り、時には子どもを叱ったり、子どもがそこから学習したりしていくということが、必要だと考えている。

#### <稲邊委員>

新渡戸稲造は、盛岡から札幌農学校へ入学し、札幌は「精神的誕生の地」であったと著書の中で表しており、自分も新渡戸稲造の生き方や人生観、価値観に大変な影響を受けてきた。札幌らしい特色ある学校教育の3つのテーマが全て未来に向かって、未来をどう変えていこう、どう変革していこうかということに重点が置かれているが、今の札幌市の土台となっている歴史や、人物像を子どもたちに伝えていくことで、札幌の良さを知るきっかけにもなるし、それを生かしてこれから未来をどうしていくかということを考えるきっかけにもなると思う。そうしたことから、未来と今までの土台となっている歴史のバランスを考えながら、学びの場に生かしていく取組も必要ではないかと思う。

今の話に関連して、札幌市独自の歴史の教育は学校教育の中でなされているか伺いたい。

#### <事務局（指導担当係長）>

小学校の社会科の3・4年生で、昔の地域の学習ということで、札幌・北海道の学習をしている。また、その中で札幌・北海道のアイヌ民族の昔の生活などを学習している。

また、中学校の社会科の歴史の中でも北海道や札幌の歴史を取り上げ、本州との違いが理解できるように子どもたちに指導しているところ。

#### <河野委員>

(資料6)P1「家族形態・地域社会の変化」について) 私は札幌市が190万人の人口を持つ大都市であるということに着目すべきではないかと思う。道内の中でも人口が集中している中で、そこでの教育をどのように捉えていくかということは大事なこと。特に、地域が多様化する中であって、孤立していく親たちも多く、それが色々な課題を学校や地域に提起しているということがある一方で、地域の人々がこれほど学校に関わっているということに非常に注目したが、これをどのように考えたら良いのだろうか。素晴らしいことと言えばそういうことだが、教育委員会としてどのように判断しているのかお聞きしたい。

#### <事務局（指導担当係長）>

地域の方々に学校に関わっていただき、このように学校教育に御協力いただく市民が増えていることについて、大変ありがたいことだと考えている。また、学校の先生方としても、子どもたちに地域のことなどに携わっている方々の様々な声を子どもに直接聞かせることで、子どもたちの心や意識、

学ぶ意欲を高めていこうと考えて、積極的に協力いただこうと意識が変わってきていると思っているところ。

#### <梶井副会長>

私はまちづくり戦略ビジョン審議会の委員にもなっているが、その審議会の中でも、稲邊委員から発言のあった、札幌の歴史を学ぶ機会を増やすことの必要性について、フロンティア精神が少し失われつつある中で、閉塞感を切り拓いていけるような次世代を育成するためには、過去にもう一度学ぶこともあるのではないかという議論がなされた。また、河野委員から発言のあったような、コミュニティづくりのために、その地域で社会教育的な意識の醸成をどのようにしたらよいかという中で、まちづくりセンターに地域の人と学校をコーディネートするような機能を果たしてもらえないかという、具体的な議論もあった。この検討会議としても、そういったところに突破口があるのではないかと考えている。

#### <長沼委員>

検討会議のスケジュールでは、第1・2回がビジョン、第3回以降がアクションプランを協議することと、第1・2回が非常に重要かと思う。今日の会議のテーマとして、札幌市教育の目指す人間像ということで、どんな人間になってほしいかとか、あるいは、幼稚園や小学校ではどんな教育をして、どんな子どもたちになってもらいたいとか、そういったことに焦点を絞って議論していく必要があるのでは。

#### <大久保会長>

それでは、次の議題が「札幌市教育が目指す人間像」になるので、事務局から説明をお願いしたい。

#### (4) 札幌市教育が目指す人間像

**資料8**・**資料9**について、事務局から説明を行った。

#### <大久保会長>

人間像については、次回会議で引き続き協議することになるが、ただいまの説明について、御意見等がありましたら、お願いしたい。

#### <塚野委員>

(**資料9**)「札幌市教育が目指す人間像」(説明文)について「未来を志向する」が、開拓していく、フロンティアスピリッツということを考えると、現行の「未来を切り拓く」という言葉もありかと思うが、この「切り拓く」を「志向する」に置き換えた理由、「志向する」という言葉を選んだ理由を御説明いただきたい。

#### <事務局(調整担当係長)>

切り拓く、開拓するという意味合いの表現は必要だと考えているが、少し古めかしい感じがあるという思いがあり、「未来を志向する」という表現に改めさせていただいた。

#### <秋山委員>

社会のグローバル化に伴って、当然この「国際的な視野」ということはますます大事になり、教育

の中でも国際舞台という視点もある。ただ、同時に「ふるさと札幌に根ざし」という言葉がこの文章だけを読むと、外へは広がっていくが、ふるさとに根ざすという部分をどう捉えているのかというあたりが若干気になった。先ほども地域の方々との繋がりや協力について話があったが、学校だけにメリットがあるということではなく、同時に地域の方々にとっても、学校と関わることによって、活性化していくという方向性がなければならないと思う。ふるさと札幌に根ざすということでは、もう少し地域と学校の望ましい視点を考えていく必要があるのではないか。

#### <三宅委員>

幼稚園の立場から発言させていただくが、幼稚園でも保護者の家庭だけではなく、本当に様々な地域の方々に支えられている。高齢の方々から温かく見守られたり、色々なことを具体的に教えてもらったりというような子どもと地域との関わり、さらには保護者と地域と幼稚園の関わりは、心豊かな子どもを育むために非常に大きな意味合いを持つものだと感じていること。そうしたことから、「ふるさと札幌に根ざし」という意味合いの表現や具体的な中身を検討していく必要があるのではないか。

#### <富田委員>

高校の立場からすると、生徒たちが札幌以外のところからも入って来るし、高校生が社会に出る時に、必ずしも札幌という意識ではない。そのために、地域社会・企業・事業所など様々なところと連携をするが、札幌以外のところとも連携していかなければならない。そういう時代の中でこの「ふるさと札幌」という表現が若干引っかかるところがある。

もう一つは、例えば、高校であれば沢山の異国生徒がいたり、自分の母国がわからない生徒がいたりする。そういう中で、「国際的な視野」は大事ではあるが、「国際的」というと国と国という感じが強いので、異文化理解とか多文化共生というような、もう少し広げた表現、そういう考え方も必要なのではないかと思う。

それからもう一つは、この3行の表現は長いので、このままこの表現を残したとしても、3文にわけてまとめた方が頭に入りやすいのではないか。

#### <永根委員>

特別支援学校の立場から発言させていただくが、本校に通ってきているのは、生涯に渡って多様な支援を必要とする子どもたちであり、ずっと言われている地域で学び、地域で育ち、地域で生活するというのを一番に考えていかなければならない。「共に支え合う」とか「心豊かな」ということは大変期待しているところであり、交流学习や共同学習というキーワードを使っていきたい、また、障がいのある子どもとない子どもが同じ地域でどう暮らしていくことができるかということ、この計画の中で今後具体的な議論ができればという思いでいる。

#### <飯田委員>

ただいまこの札幌市教育が目指す人間像の案の説明をいただいたが、ここに書かれていることはとても素晴らしいことで誰も異論はないと思う。私も答えを持っている訳ではないが、ここにある①～⑦にさらに付け加えようと思えば、また理想的なものは増えていくことはあるだろうし、この中で議論してそれを作文的なかたちでまとめていくことも可能かと思う。必ずしも着地点が大事ではないと思うが、今回と次回の議論で、今、提案されたものをどういうかたちでまとめていくかというものがなければ議論が拡散していく感じがする。

個人的には、今、お話があったように、現場にいる先生たちが一番子どもたちにどういうふうにな

って欲しいという思いがあると思うし、御意見も沢山伺いたいと思うが、今あるものをベースにまとめていくだけでは言葉は悪いが面白くない気もするので、どうまとめていくべきか少し考えた方がよいのでは。

#### <大久保会長>

ただいまの意見については、次回も議論することになっているので、今回議論になったところを整理していただいて、御提案いただきながら、進めていければと思う。

#### <室橋委員>

(資料8「H23 目標」について)「市民」が「自立した札幌人」に変わったということなのですが、「市民」が「札幌人」だけでなく「自立した」という言葉が入り変わるということがよくわからない。「自立した札幌人」というのが、一番の重要なキーワードでこれは日本中から注目されるわけで、日本中から札幌市が「自立した札幌人」を育てようとしていると見られるわけだが、ではどうやって具体的に「自立した札幌人」を育てようとしているのか注目されるので、そのところが難しい。とても大事なことであるが。

#### <林委員>

(資料4「5 概念図」について)一つ確認したいが、事務局としては、概念図の現行の5つの計画によって推進されてきたものを、新しい基本計画ではピラミッド型として、一番上が今議論している「札幌市教育が目指す人間像」、いわゆる「自立した札幌人」をどうやって作るのか、「自立した札幌人」を作るために色々な教育があって、それを具体的な計画にしていくのだという捉え方なのか。

#### <事務局(調整担当係長)>

その通り。

#### <林委員>

そうであれば、かなり絞られているのか。「自立した札幌人」を作るということを中心に据えて計画を作るのか。

#### <事務局(調整担当係長)>

その「自立した札幌人」の思いに込めるものとして、ただいま3行で御説明をさせていただいたが、ここの議論の中で、こういった要素を札幌はもう少し押し出すべきではないかとか、この要素は特に強調しなくてもよいのではないかとか、というそういった御意見をいただければ、具体的な施策の検討の際に、どこを強調して重要な施策として持っていくべきなのかというところに繋がるのではないかと考えている。

#### <林委員>

了解した。これだとかなり議論の焦点は絞られてくると思う。先ほどの説明では、まちづくり戦略ビジョンとは同等ではない、また、下にぶら下がるものでもない、教育というものは教育そのものに意味があり、何ものにも束縛されない教育という計画があるのだというようなニュアンスでお話されていた。今回はそうではなくて、「自立した札幌人」を作るための教育ということか。



#### <事務局（生涯学習部長）>

我々が今、考えている、こういう人材に育ってほしいというものを「自立した札幌人」という言葉で表現している。それ自体について、もっと幅広い考え方があるのではという御意見があれば、出していただければ十分検討し、皆様方の御意見をいただかなければならないと思う。例えば、今まで国で育みたい力を「生きる力」という言い方をしているが、そういうものも全て含めて「自立した」という言葉を使わせていただいた。これについても、そこまで限定してよいのかという御意見もあるかもしれないので、それはそれで考え方かと思う。

ただ、まちづくり戦略ビジョンの戦略編において教育の分野が主に出てくるところというと、経済の分野の人材育成のところだが、私どもとしては、人材育成が経済活動のためだけのものというよりももう少し広い意味合いがあるものだと考えているため、もう少し幅を広げて考えたつもり。また違う言い方や表現があれば議論していきたい。

#### <飯田委員>

この「自立した札幌人」というのは3行の説明文をシンボリックに表したものと思っていたが、決してこの「自立した札幌人」という言葉そのものが大事な訳ではない。最終的には大事にはなるが、この「自立した札幌人」が一つの目標ではなく、あくまで3行の説明文をシンボリックに表した一つのキャッチフレーズであり、表現したいものと理解していたが、そうではないのか。

#### <事務局（生涯学習部長）>

基本的にはそういうこと。「自立した」にも「札幌人」にも説明文で示した思いを込めた表現。

#### <大久保会長>

ただいま議論いただいたことについて、次回も継続して議論していく。どういう人材を育てていければという辺りを皆様、再度お考えいただき、次回の協議に生かしていければと思う。

## 8 閉 会

次回の日程等について、事務局から事務連絡。

以上